

一柳慧プロデュース公演に出演するユリシーズ弦楽四重奏団が、歴史と伝統ある国際コンクールで見事、第2位を獲得

2017年5月13日(土)から21日(日)にかけての約1週間、大阪・いずみホールで「第9回 大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」が開催され、第1部門(弦楽四重奏)でアメリカ出身のユリシーズ弦楽四重奏団が第2位を受賞した。彼らが本選で演奏したのは、ベートーヴェンの「弦楽四重奏曲第15番イ短調 Op. 132」である。

遅めのテンポによる序奏で始まる第1楽章を、彼らはわざとやや速めのテンポをとることで緊張感の高さを演出してゆく。この楽章で主導権を握るのは、第1ヴァイオリンのクリスティーナ・ブーイだ。ソリストとしても通用するのは間違いないと確信させるほど華があり、アンサンブルのなかで決して埋没することはない。誰かひとりが突出してしまっては成り立たないのが弦楽四重奏の世界であるが、しかしクリスティーナが先導をとりつつも、他のパートが彼女に比して弱いと感じることは一切ないのだ。

ところが第2楽章になると、クリスティーナはソリスト風の華やぎのあるサウンドを抑えはじめる。それもそのはず、この楽章は例えば2つのヴァイオリンを、あるいはヴィオラとチェロを……といったように、クアルテットのなかでグルーピングがなされた楽器群ごとに対比が作られてゆくからだ。こうなると際立ってくるのが、ヴィオラのコリン・ブルックスの存在感である。ヴィオラらしいマットな深い響きは陰影をつくり、クリスティーナが華やぎを抑えていても見事に引き立ってくるのだ。

第3楽章は、この作品における白眉ともいえる緩徐楽章。この楽章ではあくまでクアルテットというひとつの楽器となるよう、良い意味で全員が各自の個性をすり合わせていく。主となるセクションの間に挟まれる「新たな力を感じて」と題された部分では、第2ヴァイオリンのライアノン・バーナートがクリスティーナとまったく異なる魅力をもったヴァイオリンを聴かせた。繊細な表現を得意とするライアノンが器用に立ち回り、クアルテットのなかで潤滑油となり接着剤となっているのがよく伝わってくるのだ。

事実上の終楽章への前奏曲というポジションに置かれた第4楽章を経て、いよいよ最後の第5楽章である。ここでとりわけ重要になるのはチェロのグレイス・ホーが受け持つ役割だ。ソロが素晴らしいのは勿論のこと、



左から:ライアノン・バーナート(ヴァイオリン)、グレイス・ホー(チェロ)、コリン・ブルックス(ヴィオラ)、クリスティーナ・ブーイ(ヴァイオリン)

第1ヴァイオリンと同じ旋律を一緒に弾く際にクリスティーナに追従する立ち回りを完璧にこなすグレイスは、間違いなくユリシーズ弦楽四重奏団の要というべき存在である。

結果だけ見れば優勝こそ逃してしまったが、今後世界的な活躍が期待できるクアルテットであることはこのコンクールで間違いなく証明されたといえるだろう。これだけバランス良く役者が揃ったクアルテットは貴重なだけに、末永い活動を期待したい。まずは6月11日と6月17日に神奈川県民ホールで開催される本格的な日本デビューコンサートで、彼らの実力を是非多くの聴衆に体験していただく。様々な分野の古典から、昨年書かれたばかりの最新の音楽まで、2日間のコンサートでユリシーズ弦楽四重奏団が如何に可能性に満ちたグループであるのかが明らかになるはずだ。



ユリシーズ弦楽四重奏団 アメイジング・ストリングス

●オール・アメリカン・プログラム【ディスカッション付き】

6/11(日)15:00開演 全席指定¥1,000

●スペシャル・コンサートwith フレンズ

6/17(土)14:00開演 全席指定¥3,000 学生(24歳以下)¥2,000

両日セット券¥3,500 ※未就学児入場不可(託児有・要事前予約)

神奈川県民ホール小ホール(〒231-0023 横浜市中区山下町3-1)

【ご予約】チケットかながわ Tel. 0570-015-415(10:00-18:00)

<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/> (24H)

【問合せ】神奈川県民ホール事業課 Tel. 045-633-3798

主催:神奈川県民ホール(公益財団法人神奈川県芸術文化財団)

後援:米国大使館 平成29年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

